



対応で、来場者や競技参加者の安全を確保するよう定めた。

「熱中症警戒アラート」は暑さ指数（WBGT）31℃以上33℃未満が翌日に見込まれる警告で、気温35℃37℃未満相当とこちらも相当で、KGAでは指針3の嚴重警戒に加えた指針4の「特別な対応」を求めた。

ではゴルフ場では今夏の熱中症対策をどのように定めたのか。

名古屋GC（愛知）では前日の午後2時に熱中症特別警戒アラートが発令された場合には「キャディマスター室およびホームページに掲載して追加アラートを禁止」とHPに表明した。

関東などでは昨夏から対応を始めたところも多く、関東7倶楽部の1つである小金井CC（東京）は①環境省の熱中症予防情報にて、WBGT28・0（嚴重警戒）以上の場合、当日のプレーは1・0ラウンド（18H）までとし、0・5Rラウンド終了時には必ず40分以上の休憩を取ることとする。②同WBGT33・0（危険）以上の場合、そ

の時点でプレー終了を勧告する。但し、プレー中であつた場合、当該9Hについてはプレーヤーの判断によりプレー続行は可能とする。その際キャディが交代する場合がある。※上記WBGTは、府中観測所指標を採用。指針レベル3から嚴重警戒し、レベル5ではプレー終了を勧告するが、プレー続行はプレーヤーの判断としたものだ。

湘南CC（神奈川県）では暑さ指数（WBGT）での対策を導入し7月2日～9月8日まではWBGT31（レベル4）以上で、①カートナビを通じて各組に「プレー中止の検討要請」を呼びかけ、②プレーの中止を推奨しますが、判断は任意とします。

WBGT33以上（レベル5）の数値が5分以上継続して計測された場合は①カートナビを通じて各組に「プレー中止措置」を发出。②プレーヤーには速やかにクラブハウスにお戻りいただきます——と掲出している。プレー料金は、プレー中止の検討要請またはプレー中止措置

によるホールアウト未了の場合には、キャディのみ9H単位と案内した。（9H以下は半額、10H以上は全額）。

武蔵CC（埼玉）では①「6月21日～9月20日は「1ラウンド限定及びスループレー禁止」と制限。期間外でもWBGT28以上を超えた場合には、キャディ同伴は1Rまで。1・5R希望の際は別のキャディを手配するか、セルフプレー。ただし安全を考慮し、プレーは会員を含む2名以上とします。

②WBGT33以上は、雷接近時と同様の対応といたします。直ちにプレーを中止し、クラブハウスに避難をしてください。避難後は1時間ごとにWBGT温度の計測を行い、WBGT温度が33℃未満になった場合はプレーを再開。ただし、キャディの安全面を考慮し、再開後はセルフでのプレー。また、プレーは会員を含む2名以上とします。WBGT温度、指針レベルは1時間毎にマスター室前に表示するとしている。

龍ヶ崎CC（茨城）では①WBGT値33以上になった場合、原則プレー続行を中止いたします。②7月17～9月16日は、1・5ラウンドは中止。③上記期間のラウンドでは、コース売店で5分間程度の休憩をお願いいたします。④ハーフ終了後の昼食休憩は、50分を基本といたします——とした。

同倶楽部では「当倶楽部ではコース内3カ所毎分、地元気象台で毎時WBGT温度指数をチェックし、すべて33以上になった場合、プレーを中止します。昨年は8月初旬と後半に計5、6日33以上になった日がありましたが今年はそれ以上になることも予想されず。（乗用）カートを使わない歩きプレーですから。昨年から関東7倶楽部などはそういう定めで運用していたので、会員も理解してくれています。万が一の事態が起きないようにするのは営業よりも大事です」と説明している。

佐野GC（栃木）は8月に予定されていたクラブ競技を中止

し、プレー時間も早める。支配人は、「高齢者は（気温35℃以上の）暑い日はプレーをしない方も多いですし、今年8月は試しにスループレーはなくし、休憩ありで営業することに決めました」と話し、8月は6時40分のトップスタートでも途中休憩ありにして、予約の入らない10時台のスタートをなくすなど、「前倒し」にプレー時間を繰り上げる。午後スループレーの受入れも限定的にする方針だ。この前倒しのスタイルは栃木県南部のゴルフ場では今年採用するコースが多い様子だという。

また昨年までは氷嚢用の水を販売していたが、今年は新しい製氷機を購入して、無料サービスしている。

東松山CC（埼玉）では「夏の熱中症対策について」の詳細な対応を開示した。

【Ⅰ】7月23日～9月1日まで営業時間を15分繰り上げ（トップスタート7時45分、最終スタート13時45分）。熱中症警戒アラート及びWBG T実測値をマ

スター室前、各コース売店に掲示し注意喚起。セルフメディアカルチェック表を掲示し、各自のチェックを要請。コース売店、マスター室でアイススラッシーを、ハウス売店で氷嚢や冷却グッズを販売。

【Ⅱ】プレーに関するヒートルールは①「1・5Rプレー」について、埼玉県に熱中症特別警戒アラートまたは熱中症警戒アラートが発表された場合もしくはWBG T実測値が31を超えた時点で中止。② HALFで必ず休憩を取る（原則）。キャディ付きの場合は必ず休憩を取るよう要請。③ コース売店では休憩（コース売店でキャディも同伴で5分間休憩）。その分 HALF のラウンド時間を2時間20分以内とする。④ ドレスコードは猛暑時に適した通気性、吸湿性、乾燥性の良い白を基調とした熱を吸収しにくい服装に。期間（ジャケット着用免除期間）によりプレー時のみシャツの裾出しを許容する。積極的に裾出しを推奨するものでない。ハウス内では

他の人の気分を害することのないよう、節度のある身だしなみを徹底してください。

【Ⅲ】競技、懇親会に関するヒートルールは、i「クラブ競技」。

①熱中症特別警戒アラート（前日14時）発表で競技は中止（プレーは任意）。②熱中症警戒アラート（前日17時、当日AM5時）では9H競技とする（9H以降のプレーは任意）。③キャンセル料は熱中症特別警戒アラート、熱中症警戒アラートが発表された場合は徴収しない（9Hでプレーを終了した場合の料金は、キャディフィー、カートフィーが半額）。ii期間内の「クラブ懇親競技」は前半の HALF 集計に（後半のプレーは任意）、パーティは開催しない等と定めた。同クラブによると熱中症対策で意見が分かれたのがドレスコードと、雷接近時と同様の対応（雷は30～60分の回避で対応できるが、暑さ指数が下がるのを待つと結局 HALF はできない）に苦慮したとのことだ。

高麗川CC（埼玉）はクーラ

ーカート5台導入やクーラーテントの設置の他、ガイドラインを最大限反映。茨城のゴルフ場ではWBG T測定器導入前は気温を指標にして熱中症対策を入念に準備し来場者にその対策費負担を求めた。キャディ付きでの歩きコースは従業員向け対策も必要になる。乗用カート、セルフプレーコースは日陰も確保できるので警告等を行うにとどめるコースも多いようだ。

昨年夏のJGAによる「真夏のゴルフを楽しむ皆さんへ」のメッセージでは「短パン（男性）、スカート・キュロット（女性）の着用やプレー中にシャツを外に出すことで体温の上昇が抑えられる」としてプレーするゴルフ場に確認の上、「裾出し」を実践するよう推奨した。KGAガイドラインでも裾出しを提案し、NGKもドレスコード緩和検討（シャツの裾出しを認める。4℃下げる効果）を推奨した。ともかくも、全ての人が熱中症対策を徹底できているか確認して酷暑に対処したいところだ。